

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070201635		
法人名	医療法人社団醫光会		
事業所名	グループホームりんご		
所在地	群馬県高崎市上豊岡町296-5		
自己評価作成日	平成29年1月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成29年2月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1、地域との交流を積極的に行っています。 (地域の文化祭に作品を出品したり合同の非常災害訓練や救命講習を行っています。また、傾聴ボランティアや、音楽のボランティアの方々に来て頂いています。)</p> <p>2、口腔ケアの実施 (嚥下障害、誤嚥性肺炎を予防し、認知症の進行を遅らせるために、毎食後の口腔ケアを行うとともに週に一度の歯ブラシと歯間ブラシによる介助を行っています。)</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>運営推進会議は、利用者全員が参加できるよう配慮し、会議メンバー(区長・民生委員・市担当者・利用者家族等)の理解と支援を得て、利用者一人ひとりが挨拶と自己紹介をしながら、楽しかったことや近況を人前で話すことができる貴重な機会となっている。災害対策では、年2回消防署の協力により避難訓練を実施している他、2年に1回の事業所を会場とした地区主催の合同避難訓練に、職員と利用者が地域住民の協力を得ながら行っている。また、毎月、火災想定した自主避難訓練を、職員と利用者が一緒に繰り返し行うことで、利用者一人ひとりが避難経路を確認できるようになり、職員の誘導に依存せずスムーズに避難できるようになっており、災害時に備えた取り組みを継続して実施している。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域とふれあい、ささえあい、ともに暮らすひらかれたホーム」を地域の理念にしています。	地域とのふれあいと開かれたホームを、理念としているおり、地域住民が事業所内に草花を植えたり、散歩時に挨拶を交わしたりしている。職員は、毎日、笑顔を忘れずに利用者に関わっているかを、言葉かけや記録等で振り返り、理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内合同の避難訓練や町内文化祭への参加を実施しています。	毎年開催される町内文化祭には、利用者の手作り作品を出品したり、町内合同の避難訓練では、事業所を実践会場として開放したり等、地域活動に積極的に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族や来所者に見やすいように玄関やホームに掲示しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、区長、民生委員、地域婦人会、行政などからご意見を頂きサービス向上に努めています。	利用者全員が、自己紹介をし毎回メンバーとして参加している。運営推進会議の日程に合わせ、認知症の人のための音楽療法、回想法などを実施し、家族等の参加者への働きかけと理解を深める機会としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政へは事故等の発生時の報告を行い連携を図っています。	運営推進会議に参加するあんしんセンター職員とは、日頃から連携を深めている。市担当者側からも、大雨の時などの連絡が入る等、連携体制ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜勤者1名体制の時間帯のみ玄関の施錠をしているが、その他の時間帯は施錠せずに対応しています。	家族には、入居時にリスクの説明を行い同意は得ているが、普段から日々の様子について電話等で報告している。職員は勉強会を実施し言葉による抑制をしないことを共有して、拘束のないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加したり、その内容を部署会議等で話し合いを持ち、職員全体の意識を高めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当ホームでは該当社がないため機会があれば取り組んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に説明し理解していただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	隔月行う運営推進会議で、意見交換の場をもうけています。	運営推進会議は、利用者全員がメンバーとして参加し、本人が楽しかったことや要望を、直接、外部者へ伝える良い機会となっている。家族等には、来訪時にその都度、意見や要望を聞き、「来所カード」に記入してケアに活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部署会議で話し合ったり申し送りノートを活用し日々の勤務内で意見交換を行っています。	管理者は、日頃から職員とのコミュニケーションを大切にして、意見を聞くように心がけている。「部屋に家族(孫)写真を飾る」「花に水をあげる習慣をつくる」等、利用者との日常的な関わりでの職員の気づきやアイデアを活かした取り組みをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理シートの活用や勉強会を行い個々のスキルアップを図っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修会に参加し報告書を作成し部署会議等で報告します。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しており、交換研修や、グループホーム大会に参加し事例を通して勉強会を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望を受け止められるように、積極的にコミュニケーションを取れるように心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時や来初時にご家族と話し合う機会を持っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の要望を見極め、出来る限りの対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掲示物を手伝って頂いたり洗濯物たたみなどの家事を利用者様と一緒に会話をしながら行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院への受診はご家族に協力して頂き、利用者様の情報交換を密に行いかわりを持っていただいています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院へ行ったり携帯電話を所持し、ご家族や姉妹と交流しています。	昔から利用している美容院へ行ったり、定期的に家族と食事会をしたりなどの交流をしている。管理者は、様子をみながら、家族が来訪せず、本人が寂しそうな表情をしていると、家族に連絡をして来てもらう等、本人を支えながらの支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握して席替えを行ったり、興味の持てるレクリエーションを積極的に行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された利用者様のお見舞いに行き交流を図っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望を聞き困難な場合はご家族に相談し検討している。	職員は、利用者の性格を尊重し、本人と一緒に過ごす時間の中で、一人ひとりの思いや希望に関心をはらい、意向の把握に努めている。把握が困難な場合は、家族から情報を得たり、職員間で共有できる「連絡ノート」を活用している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の話や利用者様との会話を参考にし、これまでの生活歴や生活環境について把握するように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケア記録や申し送り等で把握するようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回の部署会議にはケアマネを含む職員全員でモニタリングを行いその結果を介護計画に取り入れている。	月1回の会議では、全職員が参加しモニタリングを行い、利用者の担当職員が本人や家族の意見を反映できるようにしているが、日常のケアが優先になり、個別介護計画づくりが後からとなっている。介護計画は、介護計画作成者が作っている。	介護計画は、本人・家族、関係者などのチームによる協力が不可欠なので、更なる話し合いを重ねられ、利用者主体の介護計画が作成されることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録や申し送りノートで情報を共有し、医師や訪問看護師とも情報交換しながら個々の状態把握を行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別ケアを重視し本人やご家族の要望を受け止め支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したりボランティアの方々に訪問して頂きホームの活性化を図っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と連携を取りながら、ご家族に協力いただいで受診しています。	かかりつけ医は、家族の意向もあり利用者全員が事業所の協力医となっている。協力医による定期的な往診(月2回)、緊急時、体調不良時の診察など、安心して医療を受けられる体制ができている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と電話や連絡ノートで連携を取り、緊急時など昼夜をとわず迅速な対応を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はケアマネと共に状態把握するため、病院担当者やソーシャルワーカーとの情報交換を行ったり機会を図って面会しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入職時に「重度化、終末期対応指針」の説明をし看取り介護の同意書に署名を頂きケアプランに沿って介護支援を行っています。	入居時に、書面で「重度化、終末期対応指針」の説明をし、看取り介護の同意書で確認している。事業所の対応についての指針は成文化されているが、対応方針が明確になっておらず、職員の共有化に至っていない。	全職員に対する看取り教育を含め、事業所の対応方針、体制づくりについて、チームで検討されることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	教育プログラムに添って感染防止や緊急時の対応等の勉強会を開き、部署会議にてシュミレーションを行い全員に周知しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の指導により避難訓練を実施。風水害を想定した避難訓練も行っている。町内の避難訓練に参加したり、毎月部署内でシミュレーションを行っています。	年2回、消防署の協力を得て避難訓練を実施している。2年に1回は、事業所を会場とした町内主催の避難訓練に参加し、地域住民と協力して職員と利用者が一緒に、実践的な訓練が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護の徹底と個人情報の管理には職員全員で十分注意し自尊心を大切にした対応を心掛けています。	職員が居室に入室する際には、必ずノックして挨拶を行っている。トイレへの誘導は周りに配慮しての声かけを心がけており、全職員が誇りやプライバシー確保について、常に具体的に確認しながら支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の思い込みで決めることのないように、本人の好みを把握し希望を表せるようにコミュニケーションを図っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活リズムに添ってレクリエーションなど柔軟に対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る方には自分で服を選んでいただいたり、朝の洗面整髪を基本に、化粧品など本人の要望があれば購入しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事でお汁粉、干し柿、饅頭作り等をし、おやつを食べながら思い出話をしています。	庭の野菜が収穫できる時期は、収穫した季節の食材で調理している。食堂は、陽当りがよく職員と利用者が交互に座り、食事前には口腔体操をして、利用者の「いただきます」の合図で一緒に食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は栄養士によるカロリー計算された食事を摂取し摂取量や水分量を記録し体調管理しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い週に1回全員の口腔内を歯ブラシと歯間ぶらして介助しています。また、入れ歯は就寝時にお預かりしポリデント洗浄を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	随時トイレ誘導していますが、排泄チェック表を作成し排泄パターンを把握しています。	利用者一人ひとりの排泄パターンを排泄チェック表で把握し、さりげなくトイレ誘導している。利用者により尿量が異なるので、パット類は本人に合わせて使用している。異性の職員のケアを拒む利用者には、同性職員が行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を摂取して頂いたり、体操を行っています。またこまめに水分補給を行い、服薬の支援もしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の体調に考慮して安全な人員配置で行うと共に入浴が楽しめるように支援しています。	ゆっくりとくつろいだ気分で入浴できるよう、利用者に対し1対1の体制をとっている。そのため、入浴日は、職員と利用者2人で、いろいろな会話ができる環境となっている。浴槽には、菖蒲、ゆず、りんご等を浮かべて季節感を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを整えるため散歩や日光浴を行っています。休息は室温調節を個々に行い自室で自由にとっていただきます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が各利用者様の内服薬を把握ししおり状態観察に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お出かけや外食を楽しんだり、毎日の日課として洗濯物をたたんで頂いたり、お花の水くれをして頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日は苑庭にて外気浴をしています。また、家族の協力にて外食等のお出掛けをしています。	天候の良い日は近隣の公園に出かけたり、歩行困難な方でも車椅子や車を利用して全員で外出したりしている。また、事業所から家族に連絡をするなかで、家族の協力を得ながら、毎月、家族と外食することにもつながっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームの規則で個人としての所持金は管理していないが、行事としてショッピングへ出かけたときは買い物などで支援しています。希望があった際には行事以外の買物に出かけできる限りの支援をおこなって利用料と一緒に家族に請求をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を1名の方が所持しています。その他の方も希望があればいつでも使用できます。また毎年、年賀状を書いて頂きご家族に送っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋の温度や照明の調節をし季節に応じた模様替えを行っています。季節感を取り入れた作品や写真を掲示し関連したレクリエーションを行っています。	共用の居間・食堂は、天井が高く明るい光が差しこみ、所々にゆったりとしたソファや個人用の椅子が配置されている。廊下は、利用者の安全性を考慮して、一切物が置かれてなく整然としている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂には個人用の席を用意しています。ホールにはテレビやソファを設置し自由に過ごしていただきます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人やご家族の意向でソファやテレビ、なじみのタンスを持って来て頂き、お孫さんの写真やお土産を飾っています。	居室には、家族と相談しながら馴染みのタンス、ソファ、思い出や家族の写真、お気に入りの洋服などが持ち込まれている。その他、利用者の好きな草花や土産品の置き物が飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人が生活しやすいよう、配慮した家具等の配置や生活用品の物品名の表示を付ける等、できる限り本人が自立できるようなケアの配慮を行っている。		